

# nouvelle Fontaine

vol. 35

発行日 2012年3月25日  
発行/岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10  
岸和田市立自泉会館内  
TEL/FAX 072-437-3801  
Email:fontaine@sensyu.ne.jp  
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

## 郷土史の思い出

郷土史家 玉谷 哲

さとし



私の郷土史へのかかわりは歩くことから始まりました。終戦の一週間後、特攻からの帰還復学、卒業のあとは農業技術員として農業会、農協、市役所と農業畑の職場は変わっても地域を歩き廻る仕事は変わりませんでした。その上で気付いたのは、土地を知る事だと思い、外に出られない日には市役所の倉庫で明治初年に作られた大字毎の土地台帳の地番と小字名を写し取ることでした。それが済むと各大字毎の切り図や地籍図を写し取り岸和田市の全大字の地名地図が完成したものでした。それ以後は歩く範囲を拡大し、泉南、泉北と拡げていき、地域の古老などに地名の歴史や由来を聞くことにも心がけることを怠りませんでした。

集成した小字地名数は60,000筆に及び、地籍図は全50大字で、おかげで岸和田市内全部の小字名地図が完成し、今度はそれを手がかりに遺跡、文化財包蔵地などの調査が容易になりました。それと郷土史・民俗学の諸先輩からの文献・資料の提供を受けることができたことも幸いでした。

公民館事業の発足があり、岸和田市では

昭和29年ごろから郷土史教室が開催され、泉南の各市町でも郷土史講座が行われるようになりました。

大阪湾では無いと言われていた縄文土器を出土した「春木八幡山遺跡」の発掘作業が昭和36年、市教委と古代学協会との共同で行われ、私自身調査員として参加しました。それより先、昭和29年ごろ葛城山系の観光開発道路工事で葛城山頂付近で石器や縄文土器が出土し、近畿で一番標高の高い遺跡として報道されたのも懐かしい憶出となりました。

昭和39年には先輩の推薦により日本考古学協会の会員に推挙され、大阪府外の発掘調査にも参加することもありました。昭和45年、それまでの農業畑を離れ図書館長に転出、後には郷土資料館長を兼任しました。

昭和50年に岸和田市史編さん室長となり、昭和59年に退職、その後も嘱託として市史編さんに従事し、平成17年4月にすべての仕事を辞し、今は書庫の書籍と資料の整理に追われている此の頃です。

# 「岸和田文化事業協会」結成10周年記念式典を 一月に記念事業も実施



出口副市長



信貴市議会議員



坂田教育委員長

平成24年2月25日(土)の午後、小雨の降る中、岸和田文化事業協会結成10周年記念式典を開催しました。足元が悪いにも関わらず、来賓や会員の方々が76名出席してくださいました。

記念式典は、第1部「式典」、第2部「会員によるイベント」、第3部「懇親会」という構成で実施しました。

第1部の式典では、先ず、松本会長が開会に当たったの挨拶を行い、次に、来賓として出席していただきました出口副市長、信貴市議会議員、坂田教育委員長からご祝辞を頂戴しました。時間の関係上、他に来賓としてご出席いただいた府議会議員、市議会議員、市職員、文化団体代表者につきましては、ご祝辞を頂戴せず、司会者からご紹介をさせていただきました。

続いて、専務理事から、協会の結成からこの10年間にわたる事業の内容や「ぬーべるふおんてーぬ」の掲載記事、行政の動き等について、今回作成した「岸和田文化事業協会10周年記念誌 ～協会10年の足跡～」に基づき、報告をさせていただきました。また、10周年の記念品として、自泉会館の写真を使った「クリアファイル」を3種類作り、皆様方に配付しました。

最後に、行副会長の閉会の挨拶をもって、第1部の式典を終了しました。

第2部のホールで行ったイベントは、「会員の会員による会員のためのイベント」をキャッチフレーズに、11組の会員がボランティアで出演してくれました。内容は、大正琴の演奏、バレエのDVD鑑賞、ソプラノ独唱、語り、日本舞踊、ピアノ演奏、朗読、ヴァイオリン演奏、ソプラノやメゾ・ソプラノの演奏等バラエティに富んだプログラムで、和やかな雰囲気の中、楽しく鑑賞することができました。

フィナーレは、出演者全員と出席者が一体となって、「ふるさと」を歌って終了しました。

また、展示室では会員による作品展を行い、絵画、写真、陶芸、手まり、パッチワーク、グラフィックアート、ミニだんじりを展示するとともに、昨年と一昨年に実施した「会員対象事業」の紹介コーナーも設けて皆様に見ていただきました。また、華道生真流家元の川岸慎園様のご厚意により、生花を飾っていただき、式

典のイベントに華を添えていただきました。

第3部の懇親会は、展示室に会場を移し、ビンゴゲームなどもしながら、歓談のひとときを過ごし、10周年記念式典の全プログラムを無事終了することができました。

式典とは別に、岸和田文化事業協会結成10周年及び岸和田市市制施行90周年の記念事業として、今年の1月に「岸和田ゆかりの画家 日根対山・小川翠村展」を実施しました。

先ず、前期の展示として「日根対山展」を1月9日(月・祝)～15日(日)の午前10時～午後5時まで開催しました。日根対山は、泉佐野の生まれで、山水画を得意とした幕末期の文人画の第一人者であり、彼の作品を100点ほど展示しました。また、オープニングセレモニーとして、野口市長、坂田教育委員長、松本会長によるテープカットも行いました。

後期の展示として、「小川翠村展」を1月25日(水)～29日(日)まで開催しました。小川翠村も、泉佐野の生まれで、大正から昭和にかけて京都日本画壇の秀才として活躍しており、彼の作品を70点ほど展示しました。

また、二人の画家について、1月9日の午後2時から講演会も実施しました。対山については、「日根対山の作品と足跡」というタイトルで大阪経済大学教授 長田寛康氏に、翠村については、「小川翠村の画業について」というタイトルで兵庫県立美術館学芸員 西田桐子氏にお話をさせていただきました。

この記念事業全体で、約1,000人近い入場者がありました。



懇親会のもよう

岸和田には多くのすばらしい先人たちがおられます。いろいろな分野で活躍された岸和田ゆかりの著名な方々をご紹介します。



浪曲の父

## 二代目「吉田奈良丸」

二代目吉田奈良丸（後の大和之丞）は、明治から大正にかけて、浪曲の黄金期を築いた浪曲師。明治12年奈良県下市町の生まれ、本名、廣橋廣吉。千日前愛進館で口演中の初代に入門。師の教育を受けながら、吉田小奈良を名乗り浪曲師としてデビュー。23歳の若さで二代目吉田奈良丸を襲名、明治41年に上京して新富座で口演し連日大入りとなって人気を博した。明治43年レコードに初吹き込み。翌年（32歳）には総生産枚数67万枚のうち50万枚を売上げた。実に総生産枚数の75%を占め、贅沢品だった当時の蓄音機の普及台数を考えると、驚異的な数字であり、浪花節の人气が日本のレコード産業の基盤を作ったとも言える。大正初めには、奈良丸の浪花節を歌謡曲調に改め、三味線に合わせて演じたものが「奈良丸くずし」と呼ばれブームとなりレコード化されたため全国津々浦々に広まり、ヒット歌謡の先駆けとなった。

大正6年には渡米。太平洋沿岸を巡業して、在米同胞を慰問し大統領とも会見した。米国ビクターでは、邦人初のレコーディングを行うなど日米文化交流にも尽力。

研修の場として「浪曲研究所」を設立、終生浪曲の社会的地位向上を心して「浪曲の父」と敬愛された。大正14年にはラジオBKの放送が始まり、初の浪曲出演を果たす。ラジオ放送との相乗効果でレコードも売れて、ますます浪曲

人気は隆盛することとなる。

昭和4年には春日神社から「吉田大和之丞」を拜命し、これを機に名跡を門弟の一若に譲って三代目を襲名させた。敬神の念篤く、各地で寄進興行を行い収益を奉納したほか昭和10年には、発起人となって私財のほとんどを投げ出し、京都山科の地に大石神社を創建し、大石良雄の徳を讃えた。

大和之丞となってからも浪曲界に君臨し、神戸の大正、南明、祇園の各座、新開地の三笠など多くの小屋を経営した。昭和22年6月8日、経営する岸和田市下野町にあった和泉座の天井が満員の客席に落ち、死傷者多数。賠償に苦慮する。岸和田市史には80名余りの死傷者があったと記される。昭和23年には実娘が二代目春野百合子として浪曲界にデビューするが、劇場が倒壊したことも入門する契機になったようだ。入門5ヵ月目の初の高座が襲名披露という離れ業であった。春野百合子は、女流浪曲の第一人者、また関西浪曲界の最高峰として長く活躍し浪曲親友協会の会長をつとめた。平成6年には紫綬褒章を受章し、親子2代にわたって勲章を授与される栄誉に浴した。

大和之丞は、昭和27年に下市町最初の名誉町民に推され、昭和41年には浪曲界で初めての勲五等双光旭日章を授与されたが、翌昭和42年1月20日に死去。享年88歳。流木町の岸和田市墓苑に葬られた。



当時の下野町和泉座

歩いて岸和田のよさを知る

# 岸和田慢歩

## 第6回 春木・西福寺から野村三昧(岸和田共同墓地)まで歩く

春木・西福寺から野村三昧までのコース。今回の慢歩はお寺から始まり墓地で終わったが、人生の何かを考えるよすがになるかな？。

理事 藤田保平・紙野陽子



### ⑤掃守三昧(加守共同墓地)

本来、春木川は永守橋より下流で、それより上流の轟川までを掃守川と称した。従って掃守川流域は旧掃守村で、右岸を北掃守(春木地区)、左岸を南掃守と称した。

現在、「加守共同墓地は、旧、加守・西ノ内・春木・吉井・沼・野・藤井・別所の八ヶ村の共有地の墓地です。」と説明されている。

### ⑥野村三昧(岸和田共同墓地)

岸和田城拡張の折に石垣の裏込めの石材が不足したのでその調達のために寺町(現、五軒屋町付近)の寺墓を掃守三昧の隣地へ強制的に移させ、残った無縁有縁の墓石を徴発し石垣の裏込めに使った。

先日、岸和田城の石垣が崩れた時にその石塔や墓石がたくさんに出て来たのはその証左であろう。尚、計画的な移転に拘わらず、乱雑な墓石の建て方は、岸和田城北方の防壁として、六連橋と共に一役を担われたのではないかと考えられる。

### ⑦徳本上人筆名号塔附玉垣

江戸時代中期の浄土宗の僧侶。諸処に草庵を結び苦行を重ね、近畿地方だけでなく、北陸・中部・関東など諸国を巡って人々に念仏を説いた。この独特の書風の「南無阿弥陀仏」の名号塔は徳本が亡くなった翌年文政2年(1819年)に彼に帰依した岸和田の町民によって建立。三面に名号を刻み背面に建設月日と徳本の署名花押があるが和泉砂岩なので表面の剥落が激しくセメントで修理されている。因みに「徳本行者奉讃会」は宮本町の光福寺にある。

### ⑧引導鐘と鐘楼

岸和田三昧にまだ火葬場が存在した昭和20年中頃まで葬列を組んでここ迄野辺送りをし、最後のお別れをした時に突いた。この鐘の音がこの世とあの世との区別をつけた鐘である。

泉州地方は和泉山脈と大阪湾に挟まれた地域。従って長い街道はそれと並行して、古くは熊野古道・小栗街道でその後海岸線が退潮することによって地域も広くなり紀州街道が出来た。もともとは生活道であった。南海電車春木駅を浜方向に駅前通を下り、旧26号線を越え、道幅も狭い旧紀州街道へ左折、交番の横手の参道すぐに山門がある。「遍照山西福寺」で浄土宗知恩院の末寺である。重蓮舎燈上人によって再興され当時は周囲に濠を巡らせ2万石を誇ったという。  
再び街道へ出て右折、左手に泉町団地。入り口を入ってすぐに「礼拝塚」。街道を暫く行くと道が急に盛り上がる。「永守橋」で架け替えて太鼓橋になった。少し戻って体育館脇を右折、川沿いに行くと青く塗った「六連橋」。昔を想像するよすがでもないが渡り終え、加守団地前を右折、道なりに行くと白田稲荷社、前を過ぎると左手に加守共同墓地、そのすぐ隣に見えるのが岸和田共同墓地である。墓地の石畳を進むと左右の墓碑に興味をそそられる銘があり、失礼だが面白い。中程に墓石をピラミッド形に築いた無縁仏塔が右手に見える。墓地が終わった所、右手に大きな石塔、変った筆跡の南無阿弥陀仏、徳本上人の名号塔である。実はこれが岸和田共同墓地の入口で、現墓地管理事務所が昔の引導場、六地藏と向い合っって一体地蔵、その隣が鐘楼である。

## 岸和田あ・ら・か・ら・と

取材・文 小島 栄子

### 「雛さん見せて、豆おくれ」 ～今に残る雛あらし～



町の子どもたちはその家々を回り雛人形を見てお菓子をもらいますが、その時いう言葉が「雛さん見せて、豆おくれ」です。

特に初節句の家は「これから仲良くしてください」との願いを込めて、盛大に行います。この祭りは女の子の成長を祝うとともに、生まれてきた子が町の子どもたちの仲間入りをする大切な行事でもあります。

起源などは定かではありませんが、子どもたちに配っていたのは昭和30年代まではかきもち(寒もちを細かく切ってあられにしたものを「豆」と呼んでいた)とみかんなどで、今ではチョコレートなどのお菓子の詰め合わせを配ります。

内畑町の子どもたちは毎年この日を楽しみにしています。でもあくまでも内畑町の伝統行事です。他の町の皆さんには暖かく見守っていただきたいと願います。

荘美香様方にて取材させていただきました。

今なお内畑町に残る3月3日雛まつりの風習「雛あらし」。

小学校に上がる前の女の子のいる家は雛人形を飾りお菓子を用意します。

※野村三昧と掃守三昧の境界は地図上ではわかりません。一本道があるだけです。

※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、散策することをおすすめします。

祖先から受け継ぐ  
民俗事象を研究  
**山直民俗談話会**

私たちが祖先から受け継いできた民俗事象なりわい（生業、年中行事、人生儀礼、生活習慣、伝説、ことわざなど）を中心に、考古学、歴史、地域の変遷などを採探し発表しあい、その意味や考察などを話し合うことを目的に長年活動を続けておられる山直民俗談話会について小藤政子同会代表や、会員の松波利昭さん、辻村隆三さんにお伺いしました。



民俗談話会のもよう

## 山直地域の自然環境の変化を危惧

山直民俗談話会の発足は、昭和51年（1976年）。山直地域の古墳群周辺が宅地（東ヶ丘）として開発され、小古墳群も波にのみ込まれそうになる危機にあいました。摩湯町出身で摩湯山古墳の所有者でもあった米谷（南）金治郎氏がこの古墳の大切さや、失われゆく伝承や日常生活の様子などを聞き取り、記録していかなばと言う危惧から始まったのがこの会です。

山直北小学校教諭であった米谷金治郎氏は、昭和36年（1961年）ころから摩湯町についての聞き書きを始めており、また近畿民俗学会への入会もこのころのようです。

山直民俗談話会は、当時の勤務先山直北小学校の同僚や教え子、地域の人たち70～80人が参加し発足いたしました。

## 各自の研究を発表・自由な論議

「その頃には、近畿民俗学会会員である鈴木東一、小谷方明、南清彦先生らも加わりいろいろな考察を発表され、多くを学びました。」と発足当時からの会員で現在会代表を務める小藤さんは話されます。考古学はじめ広く民俗研究をされている玉谷哲氏の発表も発足以来現在まで毎年継続しています。今年1月の例会では宝永・安政・昭和の大地震に関するお話をしてくださり、日頃からの津波や天災に対する心構えの大切さを教わったそうです。昨年起こった東日本大震災、その後被災された方々の生活が一変された様子は、日々報道され、私達も一緒になってこのことを考えねばならない事態になっています。ここ大阪湾では沖合に空港が出来て、地元漁師さんの海に生きてきた様子や漁法、伝承、素朴な信仰などを聞き取り、そ

の意味などを考察し、記録しておかねばならないと思われた小藤さんが昨年、刊行されたのが『大阪の漁業と暮らし—海に生きる人々の漁撈生活—』ですとのこと。

「祖先から受け継いできたものを聞き取り、収集し記録するそしてなぜそれが受け継がれてきたのかを考察する。学者・専門家等の眼だけでなく、実際生活した庶民の眼からも考えてみようとするのがこの会の趣旨です。」と小藤さんの言葉です。

先生方の研究や、地域の方々からの生活習慣などの聞き取りや、多方面の各自の研究が毎月の例会で発表され、会員は専門家でなく一般の素人として、自由に活発な疑問をぶつけあい、そこで一層議論が盛り上がるといった雰囲気です。続いてきました。

研究対象や対象地域は自由で広く、会員おのおのが興味を持ったことを深めて発表しています。

## 自由さが継続を

会の出入りも自由で、年会費も取らず、参加したときに資料代、連絡費として300円を納めるだけ。興味のある方は誰でも参加できます。「専門家の集まりではありませんので、素朴な疑問を自由に質問しあいます。そこから自由に活発な議論が盛り上がるんです。」と小藤さんは楽しくて仕方ないといった話し振りで。

興味のある方は是非覗いてみてくださいとおさそいがありました。

会は、毎月第2日曜日(変更あり)午後2時～4時半  
山直市民センター電話:072-441-4151で開催しております。

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。

アンケートにご協力いただいた方の感想や事業の内容を紹介させていただきます。

## 岸和田文化事業協会10周年・岸和田市市制施行90周年記念事業 「岸和田ゆかりの画家 日根対山・小川翠村展」



岸和田にゆかりの深い二人の画家、「日根対山」と「小川翠村」の作品展を前期・後期に分けて実施しました。

また、併せて専門家による講演会も実施しました。

- 平成24年1月9日(月・祝)から15日(日)まで、「日根対山展」を自泉会館展示室で実施し、455人の入場者がありました。
- 平成24年1月25日(水)から29日(日)まで、「小川翠村展」を自泉会館展示室で実施し、368人の入場者がありました。
- 平成24年1月9日(月・祝)に、自泉会館ホールで「日根対山・小川翠村」に関する講演会を実施し、76人の入場者がありました。

## 音楽世界旅 VOL.7 フランス編

### レクチャー・コンサート「愛と音楽 吟遊詩人の旅」

平成24年2月4日(土)にレクチャー・コンサート「愛と音楽 吟遊詩人の旅」を実施し、53人の入場者がありました。



#### 〈皆さんの声〉

- リユートを初めて聴き、やさしい響きに心が和みました。
- 心が洗われるような美しい歌声に感動しました。
- 遠い昔の遠い国の音なのに、私には何故か懐かしい音色でした。
- 素晴らしい企画です。ありがとうございます。これからも続けてください。
- 会場と中世ルネサンス音楽の雰囲気、とてもマッチして気持ち良かったです。

## 岸和田文化事業協会10周年 記念イベント

平成24年2月25日(土)の式典終了後、11組の会員出演による幅広いジャンルのイベントを実施しました。

- 5人の会員による大正琴の演奏(中島みゆき他)
- 4人のバレリーナが出演したバレエのDVDの投影(パ・ド・カトル)
- ソプラノ演奏(プッチーニ)
- 語り(民話:あとかくしの雪)
- 日本舞踊(長唄舞踊:浦島)
- ピアノ演奏(ショパン他)
- 朗読(日本昔話:だいこんとにんじんとごぼう)
- ヴァイオリン演奏(エルガー)
- ソプラノ演奏(小林秀雄他)
- メゾ・ソプラノ演奏(いずみたく他)
- ソプラノ演奏(レハール他)



## 第1回自泉ジュニアコンサート

平成24年3月4日(日)に、オーディションに合格した小学2年生から高校1年生までの17組によるコンサートを自泉会館ホールで実施し、150人の入場者がありました。



#### 〈皆さんの声〉

- 音楽を志す子どもたちに、発表の場を与えるとても良い企画だと思います。
- 子どもたちの情操教育に大変役立つと思いました。
- 未来に希望の持てる岸和田の一環を見たような気がしました。
- 皆年齢以上のとてもハイレベルな演奏ばかりとても感動しました。
- このコンサートを経験したことにより、良い刺激を受け、相乗的に日々の取組みに向上心が生まれると思います。

## 平成24年度 定時総会開催

平成24年度定時総会を下記の要領で開催します。

日 時：平成24年5月26日(土) 午後2時より  
 場 所：岸和田市立自泉会館

内容 総 会  
 ①平成23年度事業・決算報告  
 ②平成24年度事業計画・予算案審議  
 ③イベント

平成24年度(平成24年4月～平成25年3月)

## 会員募集

「岸和田文化事業協会」は、文化・芸術の発展をめざして活動する市民文化団体です。鑑賞や参加だけでなく、創造、発表、企画、情報発信、提言など自らのネットワークを活用して「地域の文化環境」づくりに貢献することを目的にしています。文化・芸術を愛し、会の趣旨に賛同される方はどなたでも入会できます。岸和田市在住以外の方も歓迎いたします。

年会費(入会費不要)

個人会員(1口) 2,000円 団体会員(1口) 5,000円  
 家族会員(1口) 1,000円 法人会員(1口) 10,000円  
(個人会員の同居家族) 特別会員(1口) 50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。  
 郵便振込の場合は  
 口座番号 00970—9—28145  
 加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで。  
 TEL/FAX 072-437-3801  
 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

## 第29回自泉フレッシュコンサート ～春風にさそわれて～

日 時：平成24年4月21日(土)  
 午後6時半開演  
 会 場：岸和田市立自泉会館ホール  
 出演者：石井 千夏  
 金田 尚美 (ピアノデュオ)  
 武井 真穂 (ソプラノ)  
 入場料：一般前売1,200円(当日200増)  
 会員前売1,000円(当日200増)

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで  
 TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

## 文化情報

### 「第63回岸和田市市展」への出品を募集いたします。

自作未発表のものに限りです。  
 詳しくはマドカホールにて配布中の募集要領をご覧ください。

資 格 平成9年4月1日以前に生まれた人。  
 出 品 料 500円  
 搬入場所 マドカホール 展示場(荒木町1丁目)

| 会 期 | 部 門 | 体 裁                    | 出品数        | 搬入日時                       |
|-----|-----|------------------------|------------|----------------------------|
| 第1期 | 洋画  | 額装<br>(ガラス不可)          | 1人1点       | 5月8日(火)・9日(水)<br>午後1時～7時   |
| 第2期 | 染織  | 額装・屏風・着物・タペストリー・オブジェ   | 1人2点<br>以内 | 5月22日(火)・23日(水)<br>午後1時～7時 |
|     | 陶芸  | 皿立て等、装飾的附属品不可          | 1人1点       |                            |
| 第3期 | 書   | 額装・軸装・裱装・衝立・屏風・帖・巻物・刻字 | 1人1点       | 6月5日(火)・6日(水)<br>午後1時～7時   |
|     | 日本画 | 額装(ガラス・アクリル不可)         | 1人1点       |                            |
| 第4期 | 写真  | パネル張り・額装(ガラス・アクリル不可)   | 1人1点       | 6月19日(火)・20日(水)<br>午後1時～7時 |
|     | 俳画  | 額装・軸装                  | 1人2点<br>以内 |                            |

※作品の額縁などにはつり下げ用のひもを必ず付けてください。

問合せ先：マドカホール(担当：西山・中川) 電話：443-3800 月曜日休館

## nouvelle Fontaine vol.35

発行：岸和田文化事業協会  
 発行日：2012年3月15日

◆事務局  
 〒596-0073  
 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内  
 TEL/FAX 072-437-3801  
 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 和田正則・紙野陽子・小島栄子  
 齋黒猛夫・藤田保平・本郷元子

## 編集後記...

ふぉんてーぬvol.35を発行するにあたり、1面の玉谷哲氏や6面の山直民俗談話会会の小藤政子氏やお仲間とお話をする機会を持ってました。

お話を聞いて感じたことは岸和田市の歴史や文化に興味を持ち、大きなエネルギーを注ぎこまれ、偉大な業績を残されていると言う事です。そして後輩の私達は少しでも先輩の足跡をたどり、次の世代に伝えたいと思いました。

岸和田文化事業協会の10周年の節目を迎え、心新たに頑張りたいと思います。(和田)